日本色彩学会査読功労賞

査読功労賞を受賞して

Greeting of receiving the CSAJ Paper Review Contribution Award

岡嶋 克典　横浜国立大学
Katsunori Okajima　Yokohama National University

この度は，査読功労賞の受賞者に選出いただき，誠にありがとうございました．いろいろな学会等の査読をしてきましたが，このような賞をいただいたのは初めてですし，これまでの「黒衣の務め」を評価いただけて大変嬉しく，また光栄に存じます．

査読は，アカデミアの質を保つ要（かなめ）であり，「持ちつ持たれつ（give-and-take)」的業務ですので研究者の義務と言っても過言ではありませんが，多忙なときに依頼されると正直「今は引き受けたくないなあ」と思ってしまいます．しかし査読業務は，時間を割くというネガティブな側面だけでなく，査読者にもいろいろなメリットや楽しみも与えてくれます．メリットの１つとして，自分以外の研究内容を深く理解した上で問題点を明確に指摘する力を育んでくれます．時に自分の専門分野以外の論文を依頼されることもあり，理解するのに時間や手間を要することもありますが，そのぶん学ぶことも多く，自分の研究の幅を広げる上でとても役立っているように思います．また，自分が論文を書く際に，どのように書けば査読者に理解してもらい納得してもらえるかがわかるようになるというメリットもありますし，他の査読者の結果を見ることで「そういう視点や言い方もあるんだなあ」と学べることも多々あります．さらに，まだ筆者の他に誰も知らない研究の成果を他の誰よりも先んじて知ることができるという密かな楽しみを享受することもできます．自分の研究成果を発表するまで，この事実を全世界でまだ自分しか知らないというワクワク感に浸れるのが研究者の醍醐味の１つですが，自分以外の論文の筆者とともに（少し時間的遅れはありますが…）ワクワク感を（互いに誰と知らずに）共有できるわけです．また，査読した論文が最終的に世に出れば，それもまた嬉しいものです．最後に，功労賞をいただいた今だけの特権として少し「上から目線」で恐縮ですが，若い研究者の皆さま方には多くの査読をしていただき，アカデミアの発展に寄与するとともに，ご自分の研究の幅を広げていっていただければと期待しております．

査読プロセスは自己研鑽の機会

The peer review process is an opportunity for self-improvement

溝上 陽子　千葉大学大学院工学研究院
Yoko Mizokami　Graduate School of Engineering, Chiba University

この度は，査読功労賞をいただきありがとうございます．通常は表に出ることのない査読の業績を評価していただけることは大変嬉しく，光栄に存じます．査読では投稿論文の新規性，信頼性などを精査し，査読者の意見をもとに，編集委員会は原稿の修正依頼や掲載の可否を決定します．この査読プロセスが一定のクオリティの論文を掲載するため重要なことは言うまでもありません．ただそれだけでなく，投稿者と査読者双方にとって自己研鑽の良い機会でもあることを知っていただきたいです．

私自身，投稿者の立場では，査読で厳しい指摘をされて苦労することも多いですが，それらに真摯に対応することで確実に論文のクオリティが上がりますし，異なる視点の意見をきっかけに考察が深まることが多いです．したがって，研究を深める上でも重要だと思います．もちろん査読者も人間ですので，それぞれ価値観により評価が分かれる場合もあります．論文が不採択となっても諦めず，原稿を改善して再挑戦することが大切です．

査読者の立場では，研究の再現性に必要な正確な情報，適切なデータと解釈が提供されているか見逃さないよう，また論文の価値をきちんと見極められるよう熟読しています．その際，知識・理解不足を実感することも多いですし，十分役割を果たせているか悩むこともありますが，より良い論文にするために少しでもご助力できれば，という気持ちで取り込んできました．なにより，まだ世に出ていない最新の研究成果をいち早く知り，著者とやり取りができるのは，大変勉強になり楽しいことです．

現在は論文誌編集委員を務めていますので，論文投稿や査読をお願いする側となります．色彩学会の編集委員会は，投稿論文の掲載実現に向けて丁寧にサポートする体制をとっています．査読のプロセスは研究者自身も成長する絶好の機会ですので，ぜひ活発な論文投稿と査読へのご協力をお願いできれば幸いです．